

第6回理事会

2018年診療報酬引き上げへ

署名・集会・クイズはがき呼びかけ

協会は9月9日、第6回理事会を開き、2018年診療報酬引き上げと患者負担軽減を実現するための請願署名・会員署名・クイズはがきの取り組み、堺市長選挙対策などを提起し、当面の運動方針を確認した。

5月に開始した「保険で良い歯科医療の実現を求める」請願署名は11月中旬に3万筆を目指す。これまでに、1万2千筆を集め、会員の6・2%が協力している。会員院所への訪問を行い、協力者を増やす。

9月28日には、保団連・保険で良い歯科医療を全国連絡会が、「保険で良い歯科医療の実現を求める」9・28市民集会を東京・憲政記念会館で開く。協会は30人の参加を目指し、機関紙を通じて会員・家族・スタッフの参加を呼びかける。

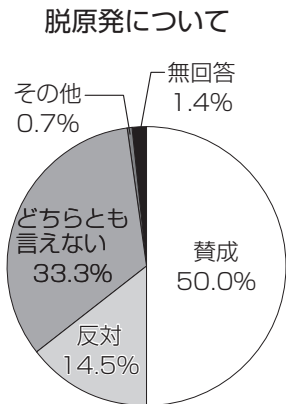
9月から始めた「診療報酬の引き上げと患者窓口負担の軽減を求める医師・歯科医師要請署名」では、①診療報酬を技術料を中心に、歯科・歯科とも10%以上引き上げる②新たな患者負担増の計画は中止し、患者窓口負担を軽減すること③懸賞クイズはがき「クイズで考える私たちの医療2017」は10月からスタート。1院所あたり30枚を届け、患者さんに医療改善の内容や歯科医療の重要性を伝え、署名協力につなげていく。

24日投票開票の堺市長選では、堺・高石・和泉地区が子ども医療費助成拡充や国保料引き下げなどの実績がある竹山おさみ市長の支持・推薦を決め、総務会、理事会でも地区の決定を承認。会員への支援を呼びかけた。

2016年度 会員意見調査

「脱原発」について賛否を尋ねたところ、「賛成」が50・0%と半数を占め、「反対」の14・5%を大きく上回った。東京電力福島第一原発事故から6年が過ぎるなか、多くの会員が原発のない社会を望んでいることが鮮明になった。安倍政権は原発を「重要なベースロード電源」と位置づけ、再稼働を進めており、会員の願いと大きく乖離している。

脱原発に「賛成」5割



女医の会

国境なき医師団 黒崎氏が講演



女医の会は2日、女性の生き方を見つめる講習会を開き、国境なき医師団で活動した外科医の黒崎伸子氏(写真)が講演した。

25人が参加した。2001年の43歳から15年間、外科医としてスリランカ・ソマリア・シリアなどで活動した経験を語った黒崎氏。スリランカで内戦が起こると、トラックの荷台で患者がどっと運ばれ、テント病院で緊急処置を行い、PTSDになった人々の心のケアなどに従事したことや、ソマリアでは非常に治安が悪く、「誰にも知られず、逃げるように」と緊急退避の指示が出され、明日に手術予定の患者を病院に残したまま、断腸の思いで立ち去らざるを得なかった」と患者の治療と自身の安全の確保することの間で苦渋の選択をしたエピソードを紹介した。だれもが海外で援助活動に参加できるわけではないが、世界の様々な状況を知るために自分自身のアンテナを増やしていくことはできる。何より、黒崎氏のお人柄に触れ、パワーをもらえた一日になった。(城東区・廣西賀子)

春夏秋冬

18年度概算要求

2018年度予算の概算要求は今回も総額百兆円を超えた。中でも防衛費は総額5兆2551億円で過去最大。一方で社会保障費の伸びは6300億円に抑えた。国民が必要とする社会保障の充実に必要な財源を確保せず、「削減ありき」で予算を編成する政府の姿勢は、国民の願いに背いている。

16年度の年収が7年ぶりに減り、歳入が上向き見通しは暗い。それにもかかわらず、防衛費は4年連続で過去最大を更新、2・5%増となった。大幅に増えたのが北朝鮮の弾道ミサイルへの対処を想定した「ミサイル防衛関連で、1791億

社会保障「削減ありき」見直せ

円(17年度比1142億円増)を計上した。日本の周辺地域の緊迫情勢を口実にした防衛予算の膨張は看過できない。18年度は医療の診療報酬と介護報酬の改定

が同時に行われる6年に1度の年になる。医療・介護報酬は患者や利用者へ提供する医療と介護の質と量を定める。15年6月に閣議決定した「骨太方針」に沿って、社会保障費の伸びを年間1000億

円以上削減した結果、患者や利用者の負担増が繰り返され、「医療・介護難民」・「老後破産」・「介護離職」を生み出した。2年前の改定では自然増抑制を診療報酬の

マイナス改定で捻出し、1700億円の削減。18年度も年末の予算編成で1300億円削減し、約5000億円まで圧縮する方針だ。「自然増分」は高齢化や医療技術の進歩によって必然的に増える費用であり、そもそも削減の余地はない。「削減ありき」で抑制すれば、患者・利用者、医療・介護従事者へしわ寄せが来ることは明白だ。税金の集め方と使い

方を見直せば、社会保障財源は増やせる。安倍政権は「設備投資や賃金アップ」のために口実に、法人実行税率を引き下げてきた。政権発足時の37・0%から16年度は29・97%へ7・03ポイントも低下

資産に匹敵するほどの富の一極集中が進む。財政難を理由に社会保障費を削る一方で、防衛費を過去最大規模に増大させるなど、安倍政権の財政運営は整合性がない。さらに大企業への減税を進めながら、延期していた消費税の増税を2019年10月に予定している。不要不急の防衛費や大型公共事業にメスを入れ、応能負担の原則にたった税制へ転換しなければならぬ。

国民の暮らしを守り、社会保障の拡充を進める政治への転換が強く求められている。

北欧の歯科医療最前線



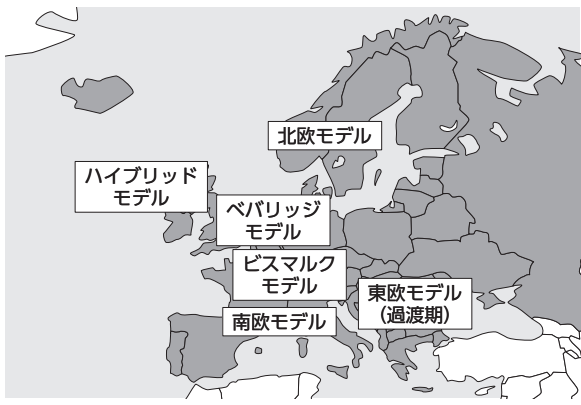
NPO法人「最先端のむし歯・歯周病予防を要求する会」理事長 アイランド・コーク大学 西 真紀子

北欧モデルの特徴

ヨーロッパの歯科医療制度は、大きく6つに分類される「1」北欧モデル、ペバリッジモデル、ハイブリッドモデル、ビスマルクモデル、南欧モデル、東欧モデル(過渡期)。EUが統合され、これらのモデル間の違いを超えて、歯科専門家の就業が可能なにも関わらず、いまだに異なる歯科医療制度が連立している。現在、住んでいるアイルランド(ハイブリッドモデル)と比べても、北欧モデルが優れているのは、人々の口腔内を見て一目瞭然だが、同じヨーロッパ内でモデルの違いを残していることに対して、一般市民は不公平を感じていないのだろうか。EU統合によって促進されているのは、むしろ、安い治療を受けるために、ハンガリーなどにデンタルツーリズムに行くことのようなだ。

5つの特徴

北欧モデルにはスウェーデン



【1】Widström E, Eaton KA. Oral healthcare systems in the extended European union. Oral Health Prev Dent. 2004;2:155-194. 【2】About the Swedish Public Dental Service. Available from: www.folkhlandvarden.se/in-english/about-the-swedish-public-dental-service/